

第8回生体恒常性とストレス応答セミナー

脂質生物学から温度生物学へ

京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻
教授 梅田 真郷 先生

日時：2011年 3月4日（金）

18:00～19:30

場所：霜仁会館3階 多目的室

生体膜は、タンパク質、脂質、糖鎖によって構成されますが、その化学組成や形態の多様性は、細胞や個体の環境に対する反応性と密接に関わっています。しかし、生体膜の主要要素である脂質の構成や配列が、細胞や個体の機能に影響を及ぼすメカニズムについては、いまだ多くの謎が残っています。

梅田先生は、生体膜脂質構成の制御機構や、それらが形態形成や温度環境応答に及ぼす影響についての研究で、多くの業績を残しております。最近では、ショウジョウバエの温度嗜好性を決定する遺伝子を同定し（Science, 2009）、生物が様々な温度環境に適応するしくみの解明をめざした研究を精力的に行っております。今回のセミナーでは、生体膜脂質のダイナミクス制御に関する基本的なお話や、生物の温度適応に関する最新の研究結果をご講演頂きます。研究者から学生まで、幅広いご参加を歓迎します。

主催：山口大学研究推進体「ストレス」

問い合わせ先：器官解剖学（解剖学第一）大和田祐二（2201）

